



### ポストコロナで「まちの保健室」活動再開

令和2年度以来、「まちの保健室」の活動はボランティア研修を除いて、地域住民の方を対象とした活動は感染予防のため、対面を避けるため、縮小または休止状態でした。

8月からは、従来のボランティアの方々が中心となり再開しています。拠点活動は商業施設や図書館の一画で行い、出前隊は、お祭りや記念式典等で行っています。今年度から姫路大学も西播支部の新拠点として活動が開始されました。



拠点【サキランドジャスコ】



出前隊【某会社の90周年イベント】



出前隊【秋祭り】



拠点【こどもの館】

昨年の5月にコロナが5類になり、徐々に従来の生活に戻っていますが、インフルエンザの流行等もあり、感染予防の影響で人と人との接触や関りが以前とは少し違っていく中で、地域住民の方々が健康に興味を持ち、自己や自他へのケアができるように、身近な存在として活動していきたいと思えます。

### 姫路大学看護学部「ひめみちくんの健康相談」



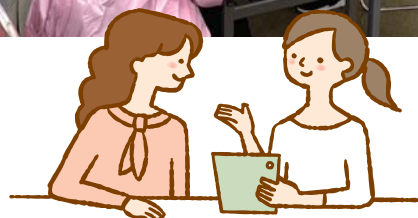
令和5年度、姫路大学看護学部と健康教育実践研究センターで「ひめみちくんの健康相談」活動を拠点型として開設しました。ひめみちくんとは姫路大学のマスコットキャラクターです。大学の掲げる教育目的としての、人に愛され信頼され尊敬される人へ続く長い「路」を歩き続ける姿を描いています。地元の皆さまから親しみやすく、また気軽に来学し健康相談を受けていただきたいという願いを込め拠点の名称としました。

今年度は、学園祭と同時開催で約110名の地域の方々が参加してくださいました。子育て世代や中高生の参加も多く、自身の健康へ関心を向ける機会になったのではないかと思います。看護学生もボランティアとして参加し、体脂肪や血圧測定を行うことにより、地域の方々と触れ合える貴重な機会となりました。さらに、ピオレ姫路が主催している「びおれっこくらぶ」に集う子育て世代への健康相談活動も計画しています。

今後、看護学部のある大学として、保健医療の専門性、学生の若い力、地域に開かれ集いやすいなどの特徴を活かした健康相談活動を計画し実施していきます。



## ボランティア研修会



今回のテーマは、「地域と病院をつなぐ認知症支援」、講師には、認知症地域支援推進員の糺 裕子氏により、11月18日 姫路商工会議所にて研修会を行いました。参加者はケアマネジャー、介護福祉士、保健師、看護師等で37名でした。

前半は、認知症施策推進大綱を紐解き、「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を、車の両輪として施策を推進する」ところから、兵庫県の認知症ケアネット概念、認知症ケアパス、認知症カフェなど実際の活動を結び付けて、地域での認知症支援活動等の講義がありました。

後半は参加者がグループカンファレンスを行い、実際にどのようなことが病院と地域で行われているのかを知ることで、どのような情報や支援が必要なのかを考えました。事後アンケートからも、様々な職種や施設からの参加があり、どのような情報が役立つのかが分かり、電話でのやり取りも状況に応じて取り入れるなど、認知症の方の状況に合わせた関わり方を考えるよい機会になりました。